

石川連協たより

J P 労組石川連協退職者の会

発行責任者 尾田 隆
編集責任者 串田 信行

石川連協退職者の会「第8回総会」

〈2021年8月21日(日) 10時15分～ 於：金沢勤労者プラザ〉

2021年度活動報告・2022年度年度活動計画（案）



I はじめに

1. 第26回参-院選では「しば慎一」組織内候補が見事に勝利しました。各支部において、会員宅訪問・電話呼びかけなどに取り組んでいただいた成果と言えます。皆様のご支援ご奮闘に心より感謝申し上げます。
2. 会員数は、8年前の発足時に比べ20%余り減少となっています。組織の活性化に向け、現役組織と連携し、退職間近の組合員や未加入退職者への加入呼びかけ活動を粘り強く行っていくことが必要です。
3. 物価高騰が続く中、この4月から年金額は0.4%引き下げとなっています。さらに後期高齢者の医療費は、1割負担者の多くが2割負担者になる制度改悪が実施されます。
4. 自公政権では生活は困窮するばかりです。参院選では「しば慎一」を国会に送り込みました。来春には統一地方選があります。今度は地方行政に私たちの声を反映させる代表者を送り込みましょう。

5. ロシアのウクライナ軍事侵攻で、悲惨な状況が報道され続けています。一日も早い停戦と世界の恒久平和の実現に向け、平和運動に積極的に取り組んでいかななくてはなりません。

Ⅱ 1年間を振り返って

1. 会員拡大の取り組み

- (1) 現在（2022年6月1日）の会員数は533名です。昨年の第7回総会において新規加入者を「会員数×5%」と設定しました。残念ながら新規加入者は11名にとどまり、死亡18名、退会者10名を上回れず17名の減少となりました。
- (2) 拡大が前進しなかったのは、コロナ禍により活動もが停滞したことと役員・会員が高齢化し新規退職者とのつながりが薄れていることが要因と言えます。
- (3) J P 労組にはこうした状況から現退一体の拡大活動を要請していますが、支部段階の役員との意思疎通が進んでいない状況です。

2. 親睦と交流の取り組み

この2年間、コロナ禍により恒例行事としてきた石川連協「学習と交流の集い」の開催が出来ませんでした。各支部においても多くの行事の開催を断念しています。

3. 政治活動の取り組み

- (1) 第49回衆院選(2021年10月31日：投開票)では、「近藤和也(石川3区)」を当選(比例復活)させることが出来ました。
- (2) 第26回参院選では組織内候補「しば愼一」勝利に向け、会員宅訪問を中心として後援会加入、投票呼び掛けを取り組んできました。
- (3) 会員宅への訪問は、コロナ禍で停滞した会員との交流活動となりました。会員の現状把握も含め、機会あるごとに実施すべき取り組みであると認識させられました。

4. 情報の発行

今年度も四半期ごとに『石川連協活動たより』を発行し、『北陸退職者の会会報』と同時発送を行ってきました。活動の報告・周知と合わせ、「しば愼一」の支援を訴えてきました。

5. 会議の開催

- (1) 連協幹事会の開催は4回を計画していましたが、全員を招集しての開催は前半の3回となりました。
- (2) 2022年3月13日に会員25名の参加で石川連協「拡大幹事会」開催し、難波参議院議員を迎え意見交換会を行いました。
- (3) 2022年6月29日に会員32名の参加で石川連協退職者の会「意見交換会」を開催し、「しば愼一」の決意表明を受けました。

6. 共済活動の取り組み

- (1) 連協・支部が会議・行事を開催する際、J P 労組の共済商品の周知・説明を行うよう要請してきました。
- (2) 6月29日、石川連協退職者の会「意見交換会」の前段に「共済説明会」を開催し、共

済商品の説明と新規・継続加入をお願いしました。

7. 北陸地方「組織慶弔安定会計」への送金

昨年、北陸地方退職者の会「第7回総会」で設置を決定した北陸地方「組織慶弔安定会計」に「会費納入会員×100円」を送金しました。

8. 退職者連合の活動参加

- (1) 石川県退職者連合から要請のあった衆院選・参院選(補選含む)の活動には、積極的に参加しました。
- (2) 石川県退職者連合が取り組む「竹林伐採ボランティア」(橋立自然公園)には、秋3名・春10名(筍堀りも兼ね)、南加賀支部会員が中心に参加しました。
- (3) 石川県退職者連合が主催の「第20回グラウンドゴルフ大」が2年ぶりに開催され、20名(4チーム)が参加しました。

○ 派遣役員：串田信行(副会長)、中西伊知郎(幹事)

Ⅲ 2022年度の具体的な活動

1. 会員相互の「親睦と交流」

- (1) コロナウイルス感染状況を判断し、2年間休止した「第6回交流と学習の集い」や「会員が集まり楽しむ」活動の開催を検討・企画していくこととします。
- (2) 開催が決まれば『石川連協たより』の紙面を活用し周知・参加を呼びかけていくこととします。
- (3) 石川中央支部は、「グラウンドゴルフ愛好会」活動を本年5月より再開しました。今後、他支部や現役組織へも愛好者の参加を呼びかけていくこととします。

2. 会員への「世話役活動」

生涯サポートの活動を目指し、会員宅訪問など会員と触れ合う取り組みを定着させ、J P 労組と連携し生活相談に対応できる体制づくりを目指します。

3. 会員拡大の取り組み

- (1) 今年度も拡大目標を「会員数×5%以上」とします。拡大には役員が退職者活動に自信をもっての呼びかけることが必要であり大切といえます。そのためにも「入会してよかった」と感じてもらえる組織・活動づくりを目指していきます。
- (2) この5年間における石川県内の60歳以上の退職者は、約200名で入会者は約25名です。加入要請をしていない方が多いと判断しています。
- (3) つながりが薄れているとは言え、役員・会員の知人の方がいると思います。まず、支部役員が先頭になって加入呼びかけを行っていただくよう要請します。
- (4) 協力会員として退職後に正会員になっていただく取り組みを開始しましたが、加入者は僅かです。退職・現役の支部組織が意思疎通を深め、粘り強く取り組んでいくこととします。
- (5) 退職者の会「中央幹事会」はJ P 労組と「現退一体による〈協力会員・正会員〉拡大に向けた取り組み指針」を協議し、各級機関において現退での共同行動を進めていくと提起しています。石川連協も指針による活動を踏まえ取り組んでいくこととします。

4. 政治活動の取り組み

- (1) コロナ禍と物価高騰そして社会保障制度の改悪と、将来に希望を持ってない状況が続いています。「しば慎一」で築いた輪を継承し活動を前進させていきます。
- (2) 来年には、統一地方選があります。J P 労組が支援する候補者を現退一体で支援していくこととします。
- (3) 「学習と交流の集い」などの機会に支援議員などの参加を求め、国政・地方行政の課題や社会保障制度の問題点を学習する機会をつくっていきます。

5. 平和活動の取り組み

ロシアのウクライナ軍事侵攻を早期に停戦させるため、そして世界の恒久平和を実現するため、私たちが参加できる平和運動には積極的に参加していくこととします。

6. 退職者連合との連携

安心安全そして未来に希望の持てる年金・医療・介護制度の構築が必要といえます。退職者連合と連携し諸課題の前進に向け取り組んでいくこととします。また、石川県退職者連合が主催するボランティア活動やレク活動に積極的に参加していきます。

7. 共済活動の取り組み

J P 労組の助け合い制度である共済商品の加入促進に取り組んでいきます。連協・支部においては機会あるごとに共済説明会を開催し、加入継続と新規加入を呼びかけていくこととします。

8. 広報活動の取り組み

『石川連協たより』を活用し連協・支部活動の周知・報告を行っていきます。発行は年4回を基本とします。支部における情報の発行についても支援していくこととします。

9. 各種会議の開催

連協幹事会を年4回開催することとします。J P 労組石川連協と協議し必要となった場合は適時開催することとします。石川連協退職者の会「第9回定期総会」は、2023年7月に開催することとします。

10. 連協「組織慶弔会計」の運営

- (1) 北陸地方「組織慶弔安定会計」に本年度も連協費1,000円から「会費納入数×100円」を拠出します。
- (2) 年会費2,500円の内、一人当たり500円を原資とし連協「組織慶弔会計」から、喜寿・死亡の際、5,000円を給付することとします。
- (3) 連協における「組織慶弔会計」が残高不足な場合は、地方幹事会へ「組織慶弔安定会計」からの補てん金を要請することとします。



石川中央支部グラウンドゴルフ愛好会の開催風景(5月12日)